

令和5年度

石川県立歴史博物館運営審議会資料



いしかわ赤レンガミュージアム

石川県立歴史博物館

ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

目 次

議題1 令和5年度事業の執行状況について

1 展覧会開催事業	1
2 その他事業	3
(1) 普及事業	
(2) 資料整備事業	
(3) 石川の歴史遺産セミナー事業	

議題2 令和6年度事業計画及び当初予算について

1 展覧会開催事業	9
2 その他事業	10
(1) 普及事業	
(2) 資料整備事業	
(3) 石川の歴史遺産セミナー事業	
3 令和6年度当初予算	13

(附属資料)

- 1 入館者数調べ
- 2 資料整備事業

議題 1

令和5年度事業の執行状況について

1 展覧会開催事業

(1) 春季特別展

(4,274人)

テーマ：「碧 ^{あお} の海道—古代の日本海交流—」
会場：特別展示室・企画展示室
期間：2023年4月29日（土）～ 6月11日（日）【44日間】
内容：石川県は日本海の南岸の中央部に位置し、古代から大陸の文化が流入する海の玄関口になってきた。日本海の交易ルートは弥生時代から発達し、奈良～平安時代には日本海の対岸にあった渤海の使節が加賀・能登を往来した。本展では、日本海沿岸の各地や朝鮮半島・中国大陸との交流を物語る資料を多数展示し、日本海を舞台にした壮大な交流の歴史を紹介した。
展示構成：第1章 海をこえて広がる交流 第2章 鉄と玉の交易 第3章 渡来文化の受容と国づくり 第4章 北ツ海を渡る人と神 第5章 渤海使の往来
主な展示品：国宝 銅鐸 島根県加茂岩倉遺跡出土 弥生時代 文化庁蔵 重要文化財 鳥取県青谷上寺地遺跡出土品 弥生時代 鳥取県蔵 重要文化財 小松市八日市地方遺跡出土品 弥生時代 小松市蔵 佐賀県指定文化財 佐賀県宇木汲田遺跡出土品 弥生時代 佐賀県立博物館蔵 銀製帯金具 加賀市狐山古墳出土 古墳時代 東京国立博物館蔵 海獣葡萄鏡 羽咋市寺家遺跡出土 奈良時代 石川県埋蔵文化財センター蔵 男神坐像 島根県青木遺跡出土 平安時代 島根県立古代出雲歴史博物館蔵 金銅菩薩立像 渤海上京龍泉府跡出土 渤海時代 東京大学総合研究博物館蔵
関連事業：講演会、展示解説、ワークショップ（銅鐸铸造体験）

(2) 夏季特別展

(4,588人)

テーマ：「いしかわの霊場—中世の祈りとみほとけ—」
期間：2023年7月22日（土）～ 9月3日（日）【44日間】 休館日：8月10日（木）
会場：特別展示室・企画展示室
内容：本展における「霊場」とは、多くの信者の参詣を許す開かれた聖地を指す。霊場の歴史は中世に遡り、平安時代後期に高野山などの全国的な規模の霊場が成立すると、それに続いて各地で小規模な霊場である在地霊場が誕生した。そこでは多くの参詣者を迎え、活発な宗教活動が行われていた。本展では、石川県内における霊場の発生と展開について、特に中世能登に焦点を当てて紹介した。
展示構成：第1章 聖地をひらく 第2章 浄土信仰のひろまり 第3章 聖地から霊場へ 第4章 能登の在地霊場

<p>主な展示品：重要文化財 新猿樂記（康永本） 康永3年（1344） 公益財団法人前田育徳会蔵 羽咋市指定文化財 福水ヤシキダ遺跡出土品 8～9世紀 羽咋市 個人蔵 石川県指定文化財 高勝寺結衆等解状案 文治2年（1186） 珠洲市 須須神社蔵 石川県指定文化財 木造阿弥陀三尊像 平安・12世紀 珠洲市 曹源寺蔵 金沢市千田北遺跡出土品 平安・12世紀 金沢市蔵 国宝 六十六部奉納札所交名 年未詳 神奈川県 称名寺蔵 中能登町指定文化財 木造十一面観音立像 南北朝・14世紀 中能登町 天平寺蔵 木造二天立像 平安・11世紀 輪島市 岩倉寺 石川県指定文化財 木造千手観音立像 平安・10～11世紀 穴水町 明泉寺蔵</p>
<p>関連事業：講演会、展示解説、ワークショップ</p>

(3) 秋季特別展

(8,304人)

<p>テーマ：「御殿の美」</p>
<p>期 間：2023年10月14日（土）～ 11月26日（日）【44日間】</p>
<p>会 場：特別展示室・企画展示室</p>
<p>内 容：「いしかわ百万石文化祭2023」のリーディング事業として企画。城郭御殿をめぐる創建、増改築、そして災害後の復興といった「時の流れ」に注目し、機能と美のあり方に迫ることを目的とした。石川県での展示は初めてとなる二条城二の丸御殿障壁画、35年ぶりになる名古屋城本丸御殿障壁画が勢ぞろいする貴重な機会となったとともに、金沢城二の丸御殿に関する最新の研究成果を一挙に紹介することで、加賀前田家がいかに城の普請を進めてきたのかについて周知する機会となった。</p>
<p>展示構成：序章 天守から御殿へ 1章 御殿創建—厳威の顕在 2章 御殿復興—先例と御好</p>
<p>主な展示品：匠明 殿屋集 慶長13年(1608) 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻蔵 重要文化財 名古屋城本丸御殿 上洛殿一之間障壁画 帝鑑図 [蒲輪徹賢] 狩野探幽筆 寛永11年(1634) 名古屋城総合事務所蔵 重要文化財 二条城二の丸御殿 遠侍二の間障壁画 竹林群虎図 狩野甚之丞筆 寛永3年(1626) 京都市(元離宮二条城事務所)蔵 長浜市指定文化財 松虎図(宮川祭颯々館楽屋襖) 岸駒筆 享和4年(1804) 長浜市宮司東町自治会蔵 大聖寺門跡 宮御殿障壁画 竹鶏図 望月玉川筆 文政8年(1825) 大聖寺門跡蔵 二之御丸御殿御造営内装等覚及び見本・絵形 第三冊 井上庄右衛門作 文化8年(1811) 金沢市立玉川図書館蔵(加越能文庫)</p>
<p>関連事業：記念講演会・館長講演会・展示解説・ワークショップ・ 県立図書館コラボイベント・音声ガイド</p>

(4) 企画展

れきはくコレクション2023

本館が2023年に収蔵した寄附、購入資料を一堂に展示した。

2023年12月16日（土）～1月21日（日）

(5) 貸館

サンリオ展（2023年12月23日（土）～3月24日（日））

主催：サンリオ展金沢実行委員会

2 その他事業

(1) 普及事業

ア. 各種行事・講座

○展示解説（観覧料が必要）

	開催日	講師・担当者	参加者数
春季特別展	5月7日(日)	三浦 俊明 (当館資料課長)	12名
	5月14日(日)	〃	3名
	6月4日(日)	〃	22名
夏季特別展	8月5日(土)	岡崎 道子 (当館学芸主任)	17名
	8月20日(日)	〃	25名
秋季特別展 (午前)	10月18日(水)	中村 真菜美(当館学芸主任) 吉田 朋生(当館学芸員)	20名
	11月15日(水)	〃	22名
秋季特別展 (夜間)	11月3日(金・祝)	〃	14名
	11月23日(木・祝)	〃	34名

○講演会（無料/事前申込制）

開催日	講演会概要	参加者数
7月29日(日)	夏季特別展 記念講演会 「霊場の成立と展開—北陸を中心として—」 講師：時枝 務 氏 (立正大学文学部教授)	40名
10月28日(土)	秋季特別展 記念講演会 「襖絵・杉戸絵の画題が語る 文化度金沢城二の丸御殿」 講師：太田 昌子 氏 (金沢湯涌夢二館館長、金沢美術工芸大学名誉教授)	45名
10月14日(土)	館長講演会 (いしかわ百万石文化祭 2023 オープニングイベント) 「加賀百万石の成立」 講師：藤井 讓治 (当館館長)	48名

○れきはくゼミナール（全7回・無料）

月1回（5月～11月）程度 土曜日に実施 13時30分～15時

会場：ワークショップルーム

	開催日	参加者数
第1回	5月20日	48名
第2回	7月15日	40名
第3回	8月19日	32名
第4回	9月16日	16名

	開催日	参加者数
第5回	9月23日	42名
第6回	11月11日	47名
第7回	11月18日	37名

合計 262名

○いしかわ歴史講座（全8回・無料）

11～2月 金曜日に実施 13時30分～15時

会場：ワークショップルーム

	開催日	参加者数
第1回	11月30日	22名
第2回	12月7日	25名
第3回	12月21日	17名
第4回	1月11日	50名

	開催日	参加者数
第5回	1月18日	18名
第6回	2月1日	53名
第7回	2月8日	38名

合計 223名
(2月10日現在)

○古文書講座（全5回・無料/事前申込制）

前期 6～7月に実施 13時30分～15時

後期 2～3月に実施 13時30分～15時

会場：ワークショップルーム

	開催日	参加者数
第1回	6月7日	44名
第2回	6月21日	45名
第3回	7月5日	40名

合計 129名
(2月10日現在)

○ワークショップ・イベント（無料/事前申込制）

開催日	イベント概要	参加者数
5月21日(日)	ワークショップ 「ミニ銅鐸をつくってみよう！」(当日5回実施) 講師：三浦 俊明 (資料課長)	15名
8月6日(日)	ワークショップ 「作って学ぶ！金沢の遺跡」 (千田北遺跡出土笠塔婆のペーパークラフト作り) 講師：向井 裕知 氏 (金沢市文化スポーツ局歴史都市推進課主査)	11名
11月4日(土)	ワークショップ 「和綴じノートを作って、 金沢城のインテリアを学ぼう！」 講師：萩原 真人 氏 (金沢美術表装協同組合代表理事)	23名

イ. 案内解説・レファレンス

○案内解説を希望する団体へは、見学前に解説員が館概要と見どころを説明している（予約制）。個人に対しては音声ガイド(無料)を勧めている。専門的な内容の案内、および学術関係の問い合わせには学芸員が対応している。

	利用件数	備考
案内解説	33件	解説員対応28件 学芸員対応5件
音声ガイド	521件	4か国語(日英中韓)対応 資料60点分の解説を収録 1点あたり約3分

- 学校団体入館者は、展示室を班別行動で見学することが多いため、展示室で利用できるワークシート「いしかわれきはくガイド(A4判4Pカラー)」を配布し、児童生徒に活用されている。ホームページでも公開しており、ダウンロードも可能なので、事前に準備し児童生徒に持たせて来館する学校も増えてきている。

	入館数	
学校(小・中・高・特別支援) 児童生徒入館者数	131校	7,188名
一般団体入館者数	68団体	1,361名
外国人入館者数 (新型コロナ感染拡大前[H31年度])	43カ国 (47カ国)	1,305名 1,288名)

ウ. れきはくメイト

- 会費：年額1500円 会員数：147名
○情報紙「れきはくメイト情報」の配布、年6～7回発行、展覧会や募集案内など
○れきはくメイトイベント

開催日	イベント概要	参加者数
1月21日(日)	くずし字解読講習～ひらがな編～ 講師：岡崎 道子(学芸主任)	16名
3月下旬予定	歴史散歩	定員20名

エ. 連携事業

開催日時	連携事業概要	会場
6月21日(水) 6月22日(木)	職場体験 中学生4名参加	当館 ワークショップルーム等
8月25日(水) 午前	県庁インターンシップ 大学生8名参加	当館 情報コーナー等
9月30日(土)	出張！みどころ解説 担当：吉田 朋生(学芸員)	石川県立図書館
11月4日(土)	出張！みどころ解説 担当：中村 真菜美(学芸主任)	石川県立図書館
3月10日(日)	「加賀藩の参勤交代 —「大名行列絵巻」の紹介とともに— 講師：吉田 朋生(学芸員)	金沢市立 玉川図書館 近世資料館
毎週土・日曜日	レトロ建築見学会(文化振興課) 講師：ボランティアガイド	当館 ウェルカムラウンジ等

随時	体験用資料貸出 希望により、学校や高齢者介護施設等に 体験用資料（実物・模型）を貸出	—
----	--	---

オ. 入館者調査

○通年実施のアンケート調査 一般個人及び団体入館者を対象

2月末までの主な調査結果（カッコ内は前年度データ）

・4段階評価による評価

	良い	まあ良い	あまり良くない	良くない
特別展	76.6% (92.2%)	19.7% (7.3%)	2.2% (0.2%)	1.5% (0.3%)
常設展	86.8% (88.5%)	10.9% (11.0%)	1.3% (0.5%)	1.0% (0.0%)
職員の 対応	87.3% (88.9%)	8.5% (10.5%)	1.5% (0.6%)	1.0% (0.1%)

○来館者の主な意見（自由記述欄）

常設展	<ul style="list-style-type: none"> ・迫力があり、石川の人々の生活の歴史がよく分かり面白かった。 ・社会の授業でかつて学んだことをもう一度学べてすごく良かった。 ・展示が新しくきれい。興味がわくような工夫がされている。特に民俗の展示はめずらしく丁寧な説明が良かった。祭礼体感シアターはすばらしい。特に太鼓。 ・祭りのコーナーが面白かったです。SNSで共有できないのが残念です。 ・ビデオ前に椅子をいくつか置いておくか、だれでも使えるようにしておいて欲しい。ここに来る前に相当歩いてきているお客さんが多いと思うので。
春季特別展 「碧の海道」	<ul style="list-style-type: none"> ・時代別・テーマ別に整理されていてわかりやすかった。 ・思いがけず国宝を見ることができました。 ・古代日本（加賀能登）の国内外の交易を通して、四方を海に面した国の源流を感じることができ、とても楽しく拝見しました。 ・もっと島根の古代出雲歴史博物館のものが見られると思っていた。 ・とても勉強になりました。できれば展示品の材質（鉄・石など）をはじめの所に別枠で明記してほしい。
夏季特別展 「いしかわの霊場」	<ul style="list-style-type: none"> ・能登までいかなければお会いできない仏さまにお会いできて感謝しております。最新の霊場に関する研究も驚きの連続でした。 ・単なる文化財の展示でなく、霊場というテーマに沿った展示となっており、とても楽しく観ることができた。 ・古代の歴史、心に触れた感じがしました。お盆でもあり、久方ぶりのご先祖に感謝できました。

	<ul style="list-style-type: none"> ・着眼点は良い。もう少し写真や位置図、地形図があれば。モノを中心とする美術館系の発想は資料館です。博物館なら教育（学習）要素を盛り込むべき。
秋季特別展 「御殿の美」	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢城の歴史がわかりやすくまとめられていて資料も多い。 ・現在、注目を浴びている二の丸御殿を始め、様々な展示が見事でした。 ・岸駒の虎が大好きなので見れて嬉しかったです。 ・寺島さんの音声ガイドのおかげでスッと理解できた。音声ガイドも面白くわかりやすく聴きごたえがあった。 ・2階で音声ガイドを使ったのに周りのお客さんの話し声が大きく、ガイドの声が聞こえにくかったです。お客さんの会話をもっと注意して欲しい。 ・職員の方がケースを綺麗にするのは良いのだが、お客様（当方）の横で拭くので集中できない。

○来館者の居住地

※（ ）は前年度、中部には富山・福井を含む

県内	43.6%	(25.3%)	(県外内訳)		
県外	53.3%	(73.9%)	中部	19.4%	(22.1%)
			関東	19.3%	(32.7%)
			関西	6.7%	(12.1%)
			その他	7.9%	(7.0%)
海外	3.1%	(0.8%)			

○歴博情報入手はどこから？

※（ ）は前年度

新聞	4.9%	(2.8%)	テレビ	3.6%	(1.5%)
通りがかり	10.0%	(4.4%)	ホームページ	21.2%	(13.6%)
ポスター・チラシ	10.9%	(7.1%)	パンフレット	15.0%	(5.4%)
旅雑誌	7.7%	(3.3%)	観光案内所	5.1%	(2.3%)
X(旧 twitter)	3.4%	(35.8%)	その他	18.2%	(23.8%)

カ. 広報

○マスメディア等を活用した広報活動

- ・県庁戦略広報課が持つ広報媒体（新聞、テレビ、ラジオ）の活用
- ・当館ホームページ、テレビCMスポットでの広報、案内リーフレット、広報誌「石川れきはく」、ポスター、チラシなどの配布
 （配布先：県内のマスコミ・情報メディア、公共施設、宿泊施設、社会福祉施設、高齢者介護施設、観光案内所、道の駅、商店、北陸三県の旅行会社、全国の文化施設、主要情報メディア等）

○インターネットを活用した広報活動

- ・当館公式ウェブサイトやX（旧 Twitter）、各種情報サイトに展覧会情報やイベント情報を掲載。

○共同セールス

- ・当館及び県立美術館、石川四高記念文化交流館、県立伝統産業工芸館の4館共同で広報宣伝活動を実施。
- ・北陸三県の教育委員会を対象として、4館の職員が地域を分担して直接訪問し、管内小学校・中学校へのチラシ・パンフレット等の配布を依頼する。併せて旅行関連業者へもポスター・パンフレット等を配布。
- ・体験学習コースなど各施設での実施事業等を説明し、幅広い活用を呼びかける。

(2) 資料整備事業

資料整備

- ・佐々木泉玄筆「蓮湖真景之図」（1861年）等、江戸時代の資料4件を購入
- ・歴史・民俗・美術の資料20件288点の寄附を受納（附属資料参照）
- ・赤穂浪士討ち入り図額（絵馬）等、新規収蔵資料2点の修復を実施
- ・新規収蔵資料を中心に、二酸化炭素による館蔵資料の殺虫処理を実施

収蔵庫整備

- ・金沢中央高校の校舎1棟を収蔵庫に改修、本年度は耐震等の工事を実施
- ・柳田収蔵庫（能登高校柳田校舎内）の耐震として収納棚に落下防止柵を設置
- ・本館および柳田収蔵庫の環境調査（文化財害虫・浮遊菌等の測定）を実施

(3) 石川の歴史遺産セミナー事業

県内外の関係機関及び研究者の協力により石川県の新しい歴史像の創造にむけた歴史的課題への取組みと、常設展示・企画展示にかかわる課題を最新の学術成果を検証

① 「古代の日本海交流」（第37回）

2023年5月13日（土）「日本海沿岸の潟湖と弥生時代の拠点集落」

高橋浩二氏（富山大学学術研究部人文科学系教授） 参加者49名

2023年5月27日（土）「二仏並座像の謎に迫る—渤海建国の地と日本道」

小嶋芳孝氏（金沢大学古代文明・文化資源学研究所客員教授） 参加者46名

② 「能登の中世霊場を探る」（第38回）

2023年8月26日（土）「霊場の古絵図を読み解く—明泉寺絵図を中心に—」

岡崎道子（当館学芸主任） 参加者37人

2023年8月26日（土）「霊場の仏像に近づく—展覧会に向けての調査から—」

杉崎貴英氏（帝塚山大学文学部教授） 参加者51人

③ 「加賀藩と公家社会」（第39回）

2023年11月3日（金・祝）「狩野探幽と俵屋宗達—江戸初期の画家と宮廷—」

奥平俊六氏（大阪大学名誉教授） 参加者43名

2023年11月12日（日）「「式学」としての和歌と加賀藩」

濱岡伸也氏（加能地域史研究会会員） 参加者35名

2023年11月23日（木・祝）「前田齊広の初政と真龍院との婚姻」

石野友康氏（金沢城調査研究所担当課長） 参加者47名

議題 2

令和6年度事業計画及び予算（案）について

1 展覧会開催事業

(1) 春季特別展

テーマ：「練り歩く人々－大名行列と祭礼行列－」
会場：特別展示室・企画展示室
期間：2024年4月27日（土）～6月9日（日）【44日間】
内容：近世以降、人々の耳目を集めたものに「行列」があります。その一つが武装によって整えられ、藩主の権威を示す大名行列であり、特に加賀藩の参勤交代では藩主・藩臣から足軽・人足まで2,000人にのぼる大行列を仕立て、金沢と江戸を行き来しました。また、城下町金沢の祭礼においても行列は欠かせない出し物であり、俄練り物（仮装行列）や曳山のほか、大型の頭・胴体をもつ加賀獅子も練り歩きました。 これら行列の要素は近代の都市祭礼にも引き継がれます。明治24年(1891)の金沢開始三百年祭では、尾山神社の神輿渡御に「備押」（行軍）を参考にした武者行列が供奉し、ありし日の大名行列をしのびました。また明治32年(1899)の旧藩祖三百年祭では、各町が用意した仮装行列や獅子舞で賑わいました。 本展は北陸新幹線県内全線開業を祝う企画として、主に北国下街道を往来した加賀藩の大名行列と、城下町金沢の賑わいを創出した祭礼行列について、館蔵資料を中心に紹介します。
展示構成：第1章 大名行列 第2章 藩祖三百年祭 第3章 祭礼行列
主な展示品：天保度御参勤御行列絵巻 江戸(19世紀) 本館蔵 前田公参観帰国図巻 大正4年(1915) 本館蔵 加賀藩大名行列図屏風 昭和初期(20世紀) 本館蔵 金沢開市三百年祭ニ付御備押行列之図 明治24年(1891) 本館蔵 旧藩祖三百年祭等各町催物画 明治32年(1899) 金沢市立玉川図書館近世史料館蔵 流聞軒其方狂歌絵日記 江戸(18世紀後半) 白沢流聞軒其方筆 本館蔵 拝領獅子（獅子頭）弘化2年(1845) 荒木乗寛作 河原町親広会蔵 翁獅子（獅子頭）・先触れ面 江戸(19世紀) 武田友月作 百親会(百姓町)蔵
関連事業：講演会、展示解説

(2) 夏季特別展

テーマ：「知の大冒険－東洋文庫 名品の煌めき」
期間：2023年7月19日（金）～9月1日（日）【45日間】
会場：特別展示室・企画展示室

内 容：「東洋文庫」（東京都文京区）は、1924年に三菱の第三代社長・岩崎久彌によって設立された東洋学分野でのアジア最大級の研究図書館であり、世界五大東洋学研究図書館の一つとして数えられる。

本展では、東洋文庫が有する約100万冊の蔵書の中から、国宝、重要文化財をはじめとする貴重な所蔵品約120件を一挙公開する。

まず、プロローグでは、東洋の諸言語を紐解き、言葉や文字から東洋学の世界へと導く。次に、第一章「東洋の旅」では、中国・朝鮮・東南アジア・インド・イスラム世界の5つのエリアの資料を紹介し、東洋の歴史を追う。さらに、第二章「西洋と東洋—交わる世界」では、大航海時代における西洋の側からの東洋の発見の様子を見ていく。そして、第三章「世界の中の日本」では、江戸時代以降の西洋と日本の出会いに注目し、日本がどのように見られていたのかを探る。

展示構成：プロローグ 第1章 東洋の旅 第2章 西洋と東洋 交わる世界
第3章 世界の中の日本 エピローグ

主な展示品：国宝 文選集注（平安時代写）

重要文化財 論語集解（鎌倉時代写、何晏編）

アヘン戦争図（1843年、エドワード・ダンカン）

東方見聞録（1602年刊、マルコ・ポーロ述 ルスティケッロ著）

ロビンソンクルーソー漂流記（1719年刊 ダニエル・デフォー作）

日本植物誌（1835年～70年 フィリップ・フランツ・シーボルト作）

日本昔噺ドイツ語版（ちりめん本）（1885～89年刊 長谷川武次郎発行）

高潮に関連して—復旧作業記録1917—19出勤簿など

関連事業：講演会、展示解説、ワークショップ

（3）秋季特別展

テ ー マ：「九谷焼の復活—陶磁器の19世紀（仮称）」

期 間：2024年 9 月 28 日（土）～11 月 10 日（日）【44日間】

会 場：特別展示室・企画展示室

内 容：江戸時代、日本列島で使用されたやきものの多くは、肥前や瀬戸・美濃、京といった非常に限られた産地で生産されていました。これに対し、江戸時代後期に入ると技術の伝播や諸藩の産業振興策の影響により列島各地でさまざまな窯が成立し、陶磁器の生産が行われるようになります。

こうした流れの中で、加賀藩や支藩の富山藩・大聖寺藩でも多くの窯が築かれます。今日では「再興九谷」と称される窯に代表されるように、色絵磁器に注目が集まっていますが、その実態は日常生活で消費される雑器と、付加価値を高めた色絵磁器の生産の両立を目指したものでした。

明治維新を迎えると、全国の窯の多くは藩による保護の打ち切りや社会情勢の変化により廃窯となります。「再興九谷」においても多くの窯が衰退しましたが、やがて海外への輸出などにより持ち直し、現在では日本を代表する焼きものの産地に数えられるようになりました。

本展では、伝世品に加え、窯跡や城下町遺跡からの出土資料、窯の経営にかかわる

古文書などの多様な資料から19世紀の加賀・能登での陶磁器生産の実態を明らかにするとともに、「九谷焼」というブランドを確立するまでの過程に迫ります。

展示構成：序章 「再興九谷」前夜 第1章 やきものづくりの復活と技術の定着 第2章 やきものづくりの広がり

主な展示品：色絵暦草紙文大皿 江戸時代後期 出光美術館蔵／白磁鉄釉蓋付碗 文化4年（1807） 武家屋敷寺島蔵人邸蔵／竹林七賢人図木瓜形平卓 江戸時代後期 小松市立博物館蔵／小松市八幡遺跡出土品 江戸時代後期 （公財）石川県埋蔵文化財センター蔵／吉田屋文書 江戸時代後期 石川県九谷焼美術館蔵／青磁花葉透彫文三具足 文政8年（1825） 来生寺蔵／染付草花図小鉢 文政9年（1826） 能美市九谷焼資料館蔵／色絵鶴丸に唐草文大香炉 江戸時代後期 石川県九谷焼美術館蔵／色絵牡丹文小八角隅入鉢 江戸時代後期 富山市陶芸館蔵

関連事業：記念講演会、リレー講義、展示解説、ワークショップ

2 その他事業

(1) 普及事業

ア 各種行事・講座

○展示解説

各展覧会毎に実施

○講演会

特別展開催にあわせて実施

○館長講演会

○れきはくゼミナール（全8回）

○いしかわ歴史講座（全8回）

○古文書講座（前期3回、後期3回 全6回）

○ワークショップ

特別展やミュージアムウィーク開催期間中などに実施。

イ 歴史体験ひろば

○基本体験は「へんしんクローゼット（歴史衣裳）」「山の民家（民具）」「昔の教室（教科書）」「歴史にハンズオン（歴史民俗資料）」「ひよこのひろば（未就学児向け遊具）」の5テーマ。2棟1階にてテーマを決めて実施。

ウ 解説案内・レファレンスサービス

○学校及び一般の団体来館者に対する博物館の概要解説：解説員対応

○常設展示解説：音声ガイド（日英韓中・無料貸出及び携帯電話利用）にて対応

○学術関係の問い合わせ：学芸員が対応

エ れきはくメイト

○情報紙「れきはくメイト情報」の配布

年6～7回発行 展覧会や募集案内など

○れきはくメイト限定イベント

歴史散歩、講習会など：年数回実施

オ 連携事業

○職場体験、インターンシップの受け入れ
中学校から大学までの生徒学生を対象

○初任者研修の受け入れ
県職員（自治研修センター主催）
教職員（教育総合研修センター主催）
警察官（警察学校主催）
その他民間企業研修（放送局など）

○レトロ建築見学会
土日祝日にボランティアガイドにより見学会を実施。本多の森エリアの拠点。

○体験用資料貸出
学校や高齢者介護施設等に体験用資料（実物・模型）を貸出

カ 入館者調査

○通年実施のアンケート調査 一般個人及び団体入館者を対象

キ 広報

○マスメディア等を活用した広報活動

- ・県庁戦略広報課が持つ広報媒体（新聞、テレビ、ラジオ）の活用
- ・当館ホームページ、テレビCMスポットでの広報、案内リーフレット、広報誌「石川れきはく」、ポスター、チラシなどの配布
(配布先：県内のマスコミ・情報メディア、公共施設、宿泊施設、社会福祉施設、高齢者介護施設、観光案内所、道の駅、商店、北陸三県の旅行会社、全国の文化施設、主要情報メディア等)

○インターネットを活用した広報活動

- ・当館公式ウェブサイトやX（旧 Twitter）、各種情報サイトに展覧会情報やイベント情報を掲載。

○共同セールス

- ・当館及び県立美術館、石川四高記念文化交流館、県立伝統産業工芸館の4館共同で広報宣伝活動を実施。
- ・北陸三県の教育委員会を対象として、4館の職員が地域を分担して直接訪問し、管内小学校・中学校へのチラシ・パンフレット等の配布を依頼する。
併せて旅行関連業者へもポスター・パンフレット等を配布。

(2) 資料整備事業

資料整備

- ・江戸時代の古文書など、石川県の歴史・文化に関わる資料の購入
- ・考古・歴史・民俗・美術の各分野資料の寄附を受納
- ・館蔵資料に関する情報発信の強化を計画

収蔵庫整備

- ・金沢中央高校の収蔵庫の完成

(3) 石川の歴史遺産セミナー事業

県内外の関係機関並びに研究者の協力により、石川県の新しい歴史像の創造にむけた歴史的課題に取り組む。常設展示・企画展示にかかわる課題を、最新の学術成果をもとに検証し、展示内容に反映

日 程	テーマ
8 月	蔵書にみる石川の近世社会（仮称）

3 令和6年度当初予算

(単位：千円)

区 分 項 目	6年度 予算額(イ)	5年度 予算額(ロ)	増減額 (イ) - (ロ)	備 考
運 営 費	105,365	99,177		管理運営費等
歴史文化国際 交流推進費	0	0		韓国全州博物館
展 示 費	45,466	70,052		常設展示・特別展示
調査普及費	16,827	14,373		非常勤職員等
整 備 費	7,236	215,135		資料修復費等
計	174,894	408,714		